

東京バツ八合唱団 月報

[第529号] 2006年7月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 Tel: 03-3290-5731 Fax: 03-3290-5732
E-mail: bachchortokyo@aol.com http: //www2.tky3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.529

July 2006

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

合唱団の創立 44 周年の集いに

小さな書物『戦争と死 生き残った特攻隊員、82歳の遺書』をご紹介します

大村 恵美子

今日は、この合唱団が生まれてから 44 周年になるのを祝って、団員ばかりでなく、ご支援の方々もここにお集まりいただき、ともに楽しいひとときを過ごそうとしております。

ことしは、なんとと言っても、来年 3 月の《マタイ受難曲》演奏にむけて、すでに 20 人以上の新人・復帰団員が加わって、毎週、力強い練習がつづけられており、それがすべての活動にわたって、生き生きとしたはずみをつけているという、うれしい現状にあります。

来年には、創立 45 周年、第 100 回記念の定期演奏会という大きな区切りの年をひかえて、私としては、みなさまにただただ心から「おめでとうございませう」と申し上げるばかりです。すべて納得できるようなかたちで、合唱団の運営は、いま進行しています。

じつは、今日のこのごあいさつのために、あらかじめ原稿にして用意していた内容があるのですが、きっと新入団員（半数の 12 名が出席されました）やお客様も含めて、昂揚した気分がひろがりそうな予感がし、以下の内容は浮き上がってしまいそうなので、ここまでの短いごあいさつで打ち切ることにしました。

そのかわり、数日来、懸案となった問題が、私のなかで起きましたので、お集まりいただいた何十人もの親しい方々に、とりあえず打ち明ける気になりました。私たちの合唱団内の、この幸せぶりを思うにつけても、私には、どうしても日本のこの社会の混迷が心につよくのしかかって仕方がないので。

夏は、敗戦と戦争による生死に、私たちの関心が大きく向けられる時季ですが、たまたま 6 月初めに、私は 1 冊の小著をいただき、何気なく読み始めたその内容に、これまでになかったほどの衝撃をうけました。松浦喜一という方の書かれた、80 ページたらずの冊子『戦争と死 生き残った特攻隊員、82歳の遺書』です。

終戦直前の 1945 年 6 月 19 日、鹿児島県の特攻基地を 3 機の仲間とともに飛び立った著者が、特攻死するはずの目的で、沖縄までの 2 時間半、自分は何を考えていたか、すでに特攻死してしまった隊員たちは何を考えていたか、戦地に置かれた他のさまざまな兵士たちは何を考えていたか

等々を、自身の恐怖の記憶に立ちもどりつつ、淡々と綴ったものです。戦争の虚しさを、とくに、この国の戦争の恐ろしさを、これほど簡潔に、かつ雄弁に語ったものに出会ったことはありませんでした。この冊子は、今日の日本の、怪しげなき臭い動きへの、きっと大きな警鐘になるにちがいない。

さっそく著者ご本人の経営される、麻布十番の和菓子の老舗「白水堂」に伺って、お話しあいをしました。

私がまず思いついたのは、小泉首相の靖国神社参拝を支持する人たちに、これを読んでもらいたい、ということでした。それには、有効なターゲットをしばらくこみ、1 行、1 ページにでも目をとどめさせる方途をつくすこと、その上で、ターゲットに必要な冊数をそろえる資金を集めることになるのですが、そのカンパをお願いする同志に、まず読んでいただくための冊数を最初に買わなければなりません。これから具体策にかかるのですが、きっと全体で 20 万から 30 万円は必要でしょう。そう思って、まだ整っていない段階ですが、このお祝い会の機会に、私のもっとも親しい方々に、最初の呼びかけをしたのでした。緊急に案をとりまとめて、あらためて皆様に訴えさせていただきますので、その節はよろしく願います。（目白会場、6 月 26 日）

さて、先に用意した原稿のつづきも、以上のことと関連してもあり、以下にご紹介しますので、お読みいただければ幸いです。

柄谷行人『世界共和国へ』を読んで

この国の全般的な空気を考えますと、だんだんと喉もとを締めつけられるような閉塞感が、日一日と濃厚になり、だれも明日のこと、われわれの迎るべき道のゆくえについて、何ほどこかの示唆も得られず、想像もできないような、乱気流のただなかに置かれています。

最近、この 4 月に出版された、柄谷行人著『世界共和国へ』（からたに・こうじん、岩波新書）という本を読みました。シニシズムやニヒリズムの態度が横行する今日、こんなタイトルに関心をもつことさえ、頭からせせら笑われそうですが、私は、そろそろ日本も、よその国のあとを

ウロウロするばかりでなく、まともなことに目を向けよう、という勢いが強まってきてよいころではないかと思っ
ているのです。この数年、あまりにもふざけた出来事が、政
治、経済、教育、社会一般にわたって、短期間に土砂降り
のように集中してつづいているところなので。

イラクでは、あいかわらず理不尽な民間人の殺害がふえ
つづけ、私たち自身も、加害者の側にだらだらと居据わっ
ている状態ですが、この邪悪な軍事行為の発端となったア
メリカの単独行動主義者たちのこと、つまり彼らが「国連
に依拠するヨーロッパを批判したとき、それを<古いカント
的理想主義>としてやつつけた」ことは、私たちもよく
覚えています（前掲書 p.220）

この著者・柄谷行人氏によると、「カントが永遠の平和の
ために、国際連合を構想した……それを最初に嘲笑的に批
判したのがヘーゲル……で、覇権国家がないかぎり、平和
はありえない、と」（p.219）そして、アメリカの論理は、
自分自身の利益と覇権を追求することによって、世界的
理念を実現しようとするものであり、それこそは「古いヘ
ーゲル」にもとづいたものになっている、というのです。

長年にわたって私たちの歌っている、バッハの音楽のな
かには、<神の国>という言葉もよくでてきます。これは
決して、聖書のなかにある抽象的な表現とか、音楽にのせ
た芸術的理想の姿とかにとどまるものではありません。
この本によると、「カントは<神の国>の実現を具体的な
なかたちで考えていました。諸国家がその主権を譲渡する
ことによって成立する世界共和国、それが<神の国>なの
です。」（p.182）

この著書は、「資本＝ネーション＝国家を超えて」という
副題が示すように、人間の歴史をたどって、現在にまでゆ
き着いた人類が、今後「致命的なカタストロフがおこる前
に、われわれはカント自身がそうしたように、実現可能な
ところから始めるほかないのです」といって、緊急の課題
として、戦争、環境破壊、経済的格差の3つをあげていま
す（p.224）

私たちは、絵空ごとのように、口先だけで<神の国>を
歌うではありません。カント（1724-1804）も、戦争に明
けくれる同時代の情勢にふかく絶望しながらも、前進しよ
うとする希望をつねに裏切りながら、それでも人間は、ど
んなに無限に遠いものであろうとも、目標にむかって絶え
ず近づこうと努める、そのような人間の想像力を重んじ、
「世界共和国の形成を、人類史が到達すべき理念として論
じている」のです。

日々、《マタイ》の練習にとりくむ私たちの心も、重い現
実を逃げたり軽んじたりすることなく、ゆがみのない、純
粋な平和への想いで、つねに満たしてゆかなければならな
いと思います。<ア>



創立記念懇親会に出席して

平 眞彌（団員：バス）

10年以上のブランクを経て、今回マタイの練習に「出戻
り」参加させて頂きました。常々、大村先生のバッハの和
訳演奏にかける情熱と、考え抜かれた素晴らしい訳詞に敬
服しておりますので、「日本語のマタイ」を楽しみに練習
しています。（50年近く聖歌隊指揮のご奉仕をさせて頂い
ていますが、訳詞の作業に当って、大村先生の名訳から多
くを学んで来ました。）

久しぶりに参加しての感想：(1)メンバーがほとんど(?)
替わってしまったのか、知った顔が少なくなって寂しい。
(2)「日本語のマタイ」とばかり思っていたので、「ドイツ
語も」は「想定外」(!?)

懇親会は、料理良し、アトラクション良しで、団員の層
の厚さとメンタルハーモニーの良さを感じさせる楽しい会
でした。



東京ハッハ合唱団
創立44周年記念懇親会
(6月26日・目黒聖公会)
写真 松尾茂香
(右ページも)



新・旧団員とともに《マタイ》公演に臨む

加藤 剛男（団員：バス）

この1年における、東京ハッハ合唱団の活動は目を見張
るものがあります。総会と記念懇親会を通じ、その感を一
層深くいたしました。

2005年度の演奏活動報告（団員総会・6月24日）

演奏活動としては、2005年12月17日、第98回（カン
タータ BWV123, 192, 197, クリスマスオラトリオ第64曲）と
本年5月13日、第99回（カンタータ BWV180, 187, 194）の
2つの定期演奏会（いずれも会場は石橋メモリアルホール）
を、また2005年7月30日、世田谷中央教会（カンタータ

BWV137,85,147、宗教歌曲 BWV507)と8月6日、野尻湖神山教会(佐々木まり子先生によるアルト独唱カンタータ BWV54,169を中心に、BWV85,147の合唱)の各特別演奏会を開催。前回(2004年)の野尻湖での2曲(BWV35,170)とあわせ、バッハのアルト独唱カンタータの全曲演奏(いずれも大村恵美子訳)は本邦初になるはず。さらに2006年3月21日には、ボンヘッファー生誕100年記念集会(信濃町教会)でカンタータ BWV192を演奏いたしました。

マタイ受難曲演奏会に向けて

2005年4月に発足したマタイ受難曲演奏会実行委員会も、秋からは本格的な活動に入り、演奏面・財政面等から考え、団員を80名以上に増員することを目標とし、そのために、元団員へのマタイ受難曲演奏会参加者募集を、早急に実施することが決められました。増員計画として、過去10年にわたって、名簿から元団員を抽出 1982年創立20周年記念「マタイ受難曲演奏会」、1987年創立25周年記念「ミサ曲口短調演奏会」、1992年創立30周年記念「ヨハネ受難曲演奏会」各出演者名簿から元団員を抽出し、これらの方々に募集案内と「1982年マタイ受難曲演奏会」の抜粋CDをお送りいたしました。さらに、12月と5月の定期演奏会チラシで、団員募集を呼びかけました。その結果、本年6月末で、74名の団員まで増加いたしました。内、元団員は17名(66%)でした。団員増加は、驚くべき変化を合唱団にもたらしました。総会で、各係りより報告がありましたが、団の経常会計は、借入れの運転資金を返済した上で、11,808円の黒字となり久振りのことでした。演奏会会計は、294,283円の黒字となりました。後援会会計は、4年間の累積赤字を解消し、523,783円の黒字となりました。44年間の団の運営で、すべての部門の財政が好転した年は、初めてではないでしょうか。最近の練習には毎回50数名の団員が集まっています。熱気があると同時に、充実した音を味わえるのは、何と幸せなことでしょうか。

手作り懇親会とバザー

6月26日の創立44周年記念懇親会は、目白聖公会の練習場も、会場一杯の出席者で、44名の方々が持ちよりの御馳走に、舌鼓を打ちました。



バスの山下広之さんの行き届いた司会で会はずすめられ、即興での日本の歌曲の男声コーラス、バッハのコーヒー・カンタータ演奏に心を豊かにされ、またバザーの品々のご寄付により、109,275円の売り上げがありました。大村恵美子先生も「来年3月の『マタイ受難曲演奏会』は、成功間違いなしです」と力強くおっしゃられました。このような合唱団に参加できますことを、限らない喜びと感じます。



受難曲と美術作品

白木 博也(画家・後援会員)

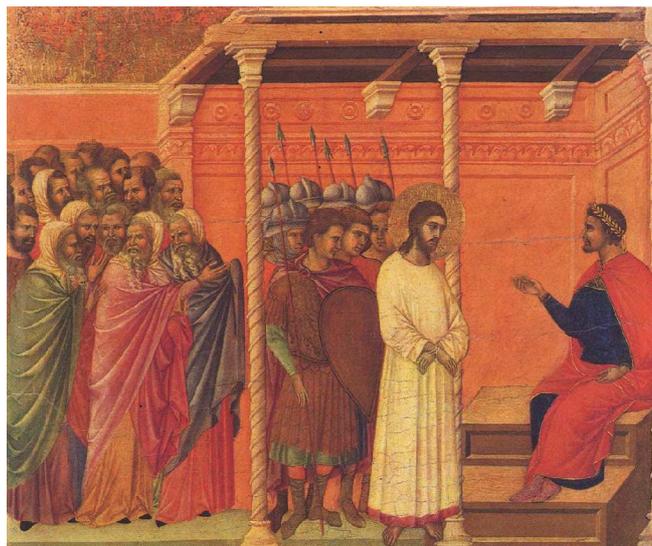
ペテロの否認

キリスト捕縛後、ひとりの召使女がペテロに、キリストと一緒にいたことをいう。ペテロは「知らない。あなたの言っていることはわからない」と否認する。



ピラトとイエス

ユダヤ人民衆は、キリストの身柄を、ユダヤのローマ総督ピラトのもとに送り、最終決定を迫る。キリストはピラトの尋問を受ける。



上・下図とも、ドウチョ・ディ・フォンセーニャ(1255/60-1315/18) シエナ・ドゥオモ美術館

訂正:

当連載のシリーズ番号は、前々号(527号・5月)の「」は「」の、前号(528号・6月)の「」は「」の誤りでした。ご訂正ください。

2006 年度 (06 年 7 月 ~ 07 年 6 月) 活動予定

<演奏活動>

2006 年内は、来春の《マタイ受難曲》に備えるため、夏の野尻湖演奏会、年末の定期演奏会をふくめて、公演予定がありません。本年 8 月は《マタイ》集中練習 (右段「8 月の練習予定」参照)。

2007 年 3 月 3 日, 18:30 開演, 世田谷中央教会

特別演奏会《マタイ受難曲》日本語演奏 (抜粋)

本番のリハーサルを兼ねた、合唱部分中心のプログラム。入場無料。エヴァンゲリスト (鳥海 寮) と聖書朗読で場面をつなぎます。ピアノ伴奏: 内山亜希

2007 年 3 月 21 日, 17:00 開演, 杉並公会堂

第 100 回定期演奏会《マタイ受難曲》日本語演奏

合唱団創立 45 周年記念公演。入場料 (前売り 3500 円・当日 4000 円・9 月 1 日発売予定)

ソプラノ: 光野孝子, アルト: 佐々木まり子, テノール: 鏡 貴之 (Ev)・佐伯雅巳, バス: 渡邊 明・宇佐美 桂一, オーケストラ: 東京カンタータ室内管弦楽団, オルガン: 草間美也子, 指揮: 大村恵美子

12 月の第 101 回定期演奏会の曲目練習開始 (下記 参照)

2007 年 6 月

松山バツハ合唱団演奏会《マタイ受難曲》ドイツ語演奏

有志参加。松山ノフライブルク両バツハ合唱団の共演に参加させていただきます。指揮: H.M. ボイアーレ

2007 年 8 月

野尻湖特別演奏会

長野県野尻湖畔での合宿練習 (3 泊 4 日程度) の締めくくりとして、国際村の木造チャペルでコンサートを開きます。詳細未定 (準備担当: ソプラノパート)

2007 年 12 月

第 101 回定期演奏会 “バツハのモテットとカンタータの夕べ”

モテット BWV227 《イエス よろこび》

カンタータ BWV65 《もろびと シバより来たりて》

モテット BWV225 《主にむかいて歌え 新たな歌》

<今後の演奏計画について>

第 102 回以降の演奏計画は、選曲委員の方々の手によって研究と準備が進められています。近いうちに、ある程度まとまった長期計画が発表される予定です。

「月報」読者のみなさま、団友・後援会のみなさま方からも、将来の演奏計画について、ご希望やご提案をお寄せくださいますよう、お待ちいたします。

《マタイ受難曲》合唱参加、間に合います！

先月号で報告されましたように、新規参加者、復帰された元団員の方々も加わって、《マタイ》の充実した練習が進められています。

練習内容は、下表のとおり、両会場とも予告された練習箇所 (括弧内に曲番号で明示、合唱部分のみ) をとり上げます。音楽構造を理解するために、ドイツ語歌詞での歌唱練習も並行しています。7 月中でいちど最終曲までの音取りを終え、8 月は 4 回の集中練習で全曲をさらいます。9 月からは、全体を通しながらの練習となる予定です。

参加希望のみなさま、お早めの合流をお待ちしています。

新入団員 (6 月)

<ソプラノ>

井上光子さん (演奏会チラシを見て)

<アルト>

鈴木幸子さん (元団員)

<テノール>

濱田倫生さん (団員の紹介)

川戸龍夫さん (後援会員・元団員)

<バス>

平 眞彌さん (元団員)

7 月の練習予定

() ... 《マタイ》練習箇所

日	曜	時間	会場	内容
1	土	15:30 - 17:30	世田谷	通常練習 (41b - 46)
3	月	18:30 - 20:30	目白	通常練習 (50b - 54)
8	土	15:30 - 17:30	世田谷	通常練習 (同上)
10	月	18:30 - 20:30	目白	通常練習 (58b - 60)
15	土	15:30 - 17:30	世田谷	通常練習 (同上)
17	月	18:30 - 20:30	目白	発声指導 [渡辺先生] (30 - 41b)
22	土	15:30 - 17:30	世田谷	通常練習 (61b - 63b)
24	月	18:30 - 20:30	目白	通常練習 (同上)
29	土	15:30 - 17:30	世田谷	通常練習 (66b - 68)
31	月	18:30 - 20:30	目白	通常練習 (同上)

8 月の練習予定

土曜: 集中練習, 月曜: 全休

日	曜	時間	会場	内容
5	土	13:00 - 15:30 16:00 - 19:00	世田谷	大村先生 (1) " (38b - 67)
12	土	13:00 - 16:00 16:30 - 19:00	世田谷	橋本先生 (29, 68) 大村先生 (29, 68)
19	土	13:00 - 16:00 16:30 - 19:00	世田谷	大村先生 (3 - 37)
26	土	13:00 - 14:30 14:30 - 15:15 15:45 - 19:00	世田谷	大村先生 (27b) + 内山先生 (1, 29) 児童 橋本先生 (38b - 67)

児童合唱の練習 (世田谷会場)

第 1 回 8 月 26 日 (土) 14:30 - 15:15 内山亜希先生

第 2 回 9 月 2 日 (土) 14:30 - 15:15 "

(以降、毎月第 1, 第 3 土曜日)